



年頭のご挨拶

一般社団法人埼玉県LPガス協会

会長 川本 武彦

2023年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には日頃から埼玉県LPガス協会の活動にご理解とご協力をいただくと共に、保安確保と安定供給・取引適正化に取り組んでいただいていることに厚く感謝を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の世界流行から4年が経過し、コロナ感染症との接し方を学習したことで、感染症対策と経済を両立する施策がとられ街に活気が戻ってきました。今年のサッカーのワールドカップにおける賑わいはその表れだと思います。

また、コロナ感染症によりデジタル化（DX）が急速に進み、県協会を始め関係各方面での会議はWEB会議が主流となるなど、DXが身近なものとなっています。

しかし、新しい年の県協会の会議運営をWEB会議だけでなく対面式会議・懇談会を多く持ち、業界の諸課題や県協会のより良い在り方・運営方法をご相談してまいりたいと考えております。

LPガス業界は保安の優等生と高く評価されていますが、反面、取引の適正化についてはまだまだ課題が残っています。昨年までは料金情報の公表（見える化）にご尽力をいただいた結果その成果が現れてきています。

一方で、無償配管・無償設備貸付の商慣行があり、経済産業省はこの商慣行に対し、新たな政策に取り組むための舵を切りました。この取り組みについての進捗状況は適宜、県協会のHP（ホームページ）等でお知らせしていきたいと存じます。

さて、ロシアのウクライナ侵攻によりエネルギーや食料品が高騰する等、世界経済は大打撃を受けています。日本においてもLPガスはLNGほどではありませんが、円安影響により高値で推移する等、会員の皆様にはこの対応に苦慮していることと存じます。一日も早くこの戦争が終結し、平和な世界が訪れることを願ってやみません。

また、昨今の温暖化（気候変動）が原因とみられる猛暑、山火事や豪雨などの異常気象が頻発し、日本各地でその被害が出ています。

今、温暖化対策が急務となっている中で政府は、再生可能エネルギーの導入や原子力発電所の再稼働等、また、排出量取引や賦課金制度など、排出するCO₂に価格を付けるカーボンプライシングを導入する方針等を示し、早急に進めようとしています。

温暖化（気候変動）の要因は主として、化石燃料から排出されるCO₂とされており、我々LPガスを生業とする事業者としては一定の責任と対策を早急に進める必要があります。

このことから温暖化対策を会員全員で取り組んでいかなければならない時期にきています。元売各社では合成LPガス（グリーンLPガス）の研究開発に取り組んでいますが、開発までの期間（トランジション期間）は販売事業者が自らの責任で対応していかなければなりません。2030年のCO₂排出量46%削減を達成し、その先の2050年にLPガス事業が生き残るためにも、このトランジション期間での活動が大切なのです。我々の次の世代に襷（たすき）をつないでいくためにも会員の皆様と共に知恵を出し合ってください。

結びに当たり、会員各社の益々のご発展と、代表者の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。